

# Keiba Global Front Line

## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



### 合田 直弘

英國で最も馬券が売れる競走であり、その映像が世界80か国に配信されるという、スポーツ界の一大イベント「グランプリ・ナショナル（芝34F 74y 約690万円）」の開催が、4月15日に迫っている。このレースに向けて、ブックメーカー各社が9～13倍のオッズを掲げて前売り1番人気に支持するノーブルイエーツ（騙8）が、今月のこのコラムの主役だ。

愛国産馬で、バリインデニックス競馬場で行われたポイントトゥ・ポインント競走で2着となつた後、上場されたタタソールズ

・チャルトナム・ディセンバー・ミックスセールにて7万5千ポンド（当時のレートで約1135万円）で、馬主ポール・バーン氏の代理人に購買されたのがノーブルイエーツである。カーロウ郡のバジエナルスタウンに拠点を持つエメット・マリンズ厩舎に在籍することになった同馬は、ナショナルハントフラットで3戦1勝の成績を残した後、21年3月にハードルデビュー。ナヴァンのメイドン・ハーデル（芝22F）を12馬身差で制すると、ハードル出走をこの1戦のみで終え、21／22年シーズンからスティープルチエイスに転進した。

転進初戦となつたゴルウェイのビギニアーズチエイス（芝18F 110y）を頭差で制し、スティープルチエイスでも早速白星を挙げた同馬だったが、その後は壁にぶつ

かることになった。3戦して、いずれも勝ち馬から15馬身以上離される敗戦を喫した後、22年1月30日に出走したネースのG3ビジネスクラブノーヴィスチエイス（芝24F 170y）では、後方のまま第8障害飛越後に競走を中止することになった。

そこから連闘で挑んだウエザビーのG2タウントン・ノーヴィスチエイス（芝24F 45y）では、一変した走りで2着に好走。成績が上がつたことが売り時と見た馬主のポール・バーン氏は、この段階でノーブルイエーツを、大手馬主のロバート・ウェイリー・コーエン氏に売却している。庭先取引だったため、譲渡価格は公表されていない。

馬主が変わつた一方、マリンズ厩舎に留まつたノーブルイエーツは、新たな馬主の服色を背にチャルトナム・エスティヴィアルのG3アルティマハン・ディキャップチエイス（芝25F）に出走。ここで9着に敗れた後に挑んだのが、昨年のG3グランプリ・ナショナルだつた。

馬主の子息サム・ウェイリー・コーエンが騎乗したノーブルイエーツは、オッズ51倍の24番人気での出走だった。ここまで成績を鑑みれば、妥当な評価だつたと言えよう。

ところが、前半は後方で競馬をした同馬が、2周目のカナルターンを飛越する

頃には好位に進出。29号障害飛越後に先頭に立つた後、最終障害で拙い飛越を見せて一旦は2番手に落ちたが、そこから盛り返して最後は2.1/4馬身抜けて、グランプリ・ナショナル制覇を果たしたのである。わずか1カ月前に同馬を購買したロバート・ウェイリー・コーエン氏によつては、これまで同馬を所有していたポール・バーン氏は、痛恨の判断ミスを犯したことになる。

エメット・マリンズ調教師が、今季のノーブルイエーツに期待するのは、達成すれば1934年のゴールデンミラー以来、89年ぶり史上2頭目の快挙となる、チャルトナムのG1ゴールドC（芝26F 70y）とグランプリ・ナショナルの、同一年連覇である。

今季の同馬はここまで4戦し、エントリーのG2メドニーラウズチエイス（芝24F 210y）を含む2勝。直近のレースとなつた、1月28日にチャルトナムで行われたG2コツツウォルドチエイス（芝25F 56y）でも、自らより3ポンド斤量が軽かつた勝ち馬から2.1/2馬身差の3着に健闘。好調なシーザーを送つてゐる。

G1ゴールドCへ向けた前売りでは、オッズ7～8倍の前売り2～4番人気に推されているノーブルイエーツ。まずは3月17日のG1ゴールドCが注目の一戦となる。